

頑張れ受験生 その2

下妻一高は、幕末の水戸藩士である藤田東湖の漢詩の一節、「発（ひら）いては万朶（ばんだ）の桜と為る」から「為桜（いおう）学園」を名乗っていることは、本校の関係者なら誰もがご存じのことと思います。

校内には多くの桜の木があり、春には見事な花を咲かせ、風が吹けば、華麗な花吹雪となり、地面を覆う花びらはピンクの絨毯かと思ふほどの鮮やかさです。その中でも私のイチオシは、学習館前のソメイヨシノです。この桜は、校内で一番早く開花します。同じ敷地内にあって開花の時期が違うのには理由があるはずです。私は、桜の木に隣接する学習館の使用状況と関係があると考えています。本校は、生徒の自習場所として、



放課後や休日も含めて、常時、学習館を開館しています。特に受験勉強の総仕上げをする秋から春先にかけては、生徒の利用率が高まります。その時、館内の暖房と照明によって、学習館の南側にある桜の木が、校内の他の桜よりも多くの熱量を感じているのだと思います。そこに生徒の学習に対する熱意が加わっていると言っては、言葉が過ぎるでしょうか。個人的な見解として、

この桜の開花が早いのは、学習館の稼働時間とほぼ同意であろう生徒達の学習時間に比例していると結論づけたいと思います。このような趣旨の話を、担任をしていた生徒達には何度か伝えています。また、今年度の学校説明会の際にも、この話をさせていただきました。

上の写真2枚は、夜の学習館と本館の様子です。現在のところ、桜は、まだ蕾のままですが、春の足音とともに、開花が進み、生徒達からたくさんの喜びの知らせがやってくることを桜の木と共に待ちたいと思います。





(茨城県

立下妻第一高等学校長)